

国立病院機構 QC 活動報告

病院名	国立病院機構東名古屋病院				
テーマ	①医療サービス	②経営改善	○	③医療安全	その他
タイトル	自作川柳による転倒予防啓発活動 ～川柳で 転倒予防に 取り組もう！～				
チーム名	てんとうぼし チーム 1010-4		リーダー (役職名及び氏名)	第一神経内科医長 饗場郁子	
メンバー (役職名及び氏名)	(看護師)太田智子、(看護師)村井敦子、(看護師)桑山華佳、(看護師)横田友美、(看護師)岩佐亜希子、(看護師)米津康治、(看護師)那須香織、(医療安全管理係長)安藤悦子、(理学療法士)久野華子、(理学療法士)衛藤理沙				
取組期間	平成 22 年 9 月～平成 23 年 6 月			会合回数	10 回程度
取組要旨	患者・家族・医療スタッフに対して転倒予防対策啓発のため、転倒予防にまつわる川柳を1か月間募集し、チーム 1010-4 が詠んだ句とともに注意してほしい場所に掲示した。65 句の川柳が集まり、神経内科病棟、神経内科外来、理学療法室に2か月間掲示した。川柳掲示後、神経内科(介入病棟)では転倒発生率が有意に減少($p < 0.05$)した。また、アンケート調査の結果、患者・家族・医療スタッフの転倒予防に対する意識の向上に役立っていた。自作川柳の募集と掲示は、入院患者の転倒減少および転倒予防の啓発に有効な方法と考えられる。				

【取り組みの背景】

当院は、H13 年から神経難病患者の転倒予防対策の研究に取り組み、研究の成果より様々な転倒予防対策が明らかになってきた。しかし、研究に関わっていないスタッフや患者・家族に対策が十分伝わっていないことが問題であった。転倒予防対策を啓発するための方法として、転倒予防に関する川柳を募集し、我々チームが詠んだ句と合わせ掲示することで、転倒予防対策を効率よく伝えたいと考えた。

【取り組みの内容】

① 川柳の募集

まず、神経内科 4 病棟(神経難病 2 病棟、回復期リハビリテーション病棟、神経内科一般病棟)、神経内科外来、理学療法室にて H23 年 1 月中旬から 1 ヶ月間、転倒予防にまつわる川柳を募集した。川柳だけでなく、川柳にまつわる思いやエピソードも記入してもらった。その結果、患者・家族から 32 句、医療スタッフから 33 句、チーム 1010-4 から 19 句、計 65 句が集まった(図 1 集まった川柳の例)。

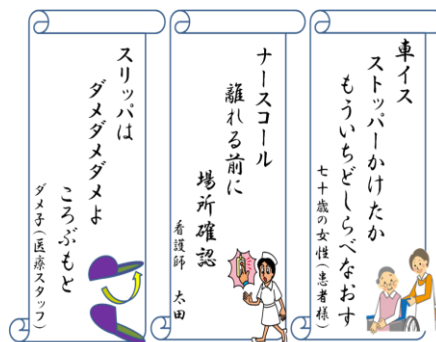


図 1 集まった川柳の例

② 川柳の掲示

その後図2,3のような形式で、2ヶ月間（H23年3～4月）川柳を掲示した。掲示場所は、神経内科4病棟、神経内科外来、理学療法室で、廊下の掲示板以外にトイレやベッドサイドなど転倒に注意してほしい場所とし、1週間毎に張り替え、1か月で65句の川柳が一巡するようにした。また、すべての川柳を閲覧できるようなファイルを患者・家族用、医療スタッフ用に常備した。



図2 川柳の掲示（スタッフ向け）
トイレ介助をするスタッフの正面に

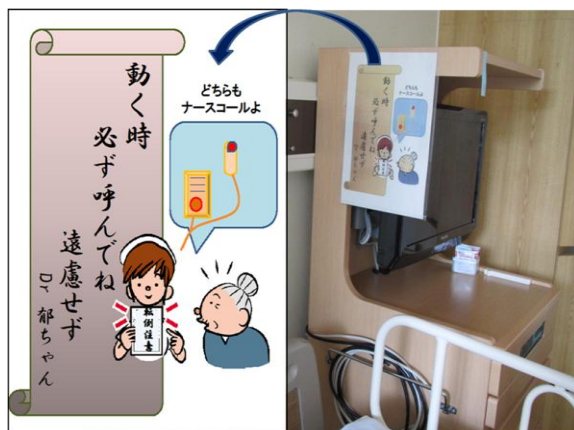


図3 川柳の掲示（患者向け）
なかなかナースコールを押してくれない方のベッドサイドに

③ アンケートの実施

4月末日に川柳をはがし、H23年5月2～6日にアンケートを実施した。対象は川柳を掲示した病棟に入院していた患者・家族80名、及び掲示病棟の看護スタッフ81名、理学療法士26名の合計187名。アンケート内容は、①掲示を知っていたか②貼り換えを知っていたか③転倒予防に関心を持ったか④転倒予防に役立ったか⑤見やすさ⑥展示場所⑦印象的な川柳についてである。

【取り組みの成果】

1. 転倒発生率の変化・・・転倒減少効果はあったか？（図4）

神経内科（介入病棟）では介入前（H22年4月～H23年2月）延べ入院51046人中345件（0.68%）だった転倒が、介入後（H23年3～4月）延べ入院9637人中46件（0.48%）に有意に減少（ $p < 0.05$ ）したが、他科（非介入病棟）では延べ入院62681人中200件（0.32%）が延べ入院11359人中33件（0.29%）とほとんど変化がみられなかった（ $p = 0.62$ ）（カイ二乗検定）。また、川柳掲示前後の転倒リスクは、他科で0.91（95%CI：0.63-1.32）、神経内科で0.71（0.52-0.97）と、変化程度の差は有意でないものの介入病棟で低下傾向を示した（オッズ比の等質性の検定）。4月は3月に比べ、回復期リハビリ病棟、神経難病病棟を含め神経内科でさらに減少したが他科では増加し、転倒リスクの変化程度は他科1.23（95%CI：0.79-1.92）に対し神経内科0.53（95%CI：0.33-0.87）と有意に低下していた（ $p < 0.05$ ）。

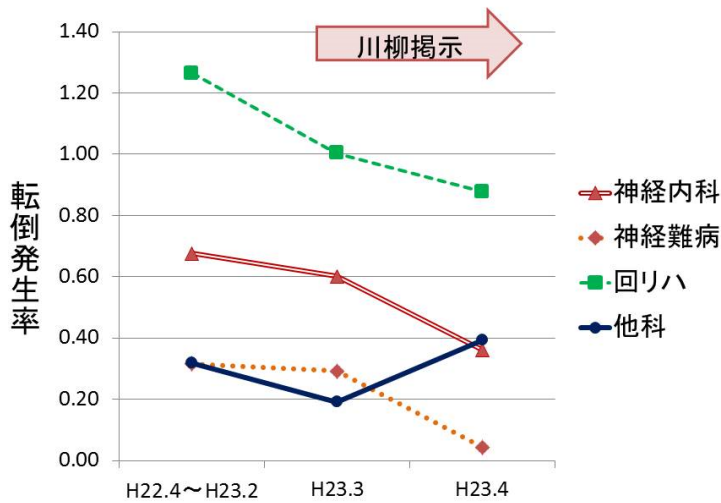


図4 川柳掲示前後の転倒発生率の変化

いた。一方、川柳を1週間毎に貼り替えていたことを知っていたのは、患者・家族は20%、スタッフが41%であった。川柳を掲示したことで、転倒予防への関心を持った患者・家族は68%、スタッフが73%。実際に転倒予防に役立ったのは、患者・家族は43%、スタッフが32%であった。どんな風に役立ったかについては図5のような意見が得られた。掲示場所は、患者・家族より掲示する高さが見にくいという意見が複数あり、見やすさ・掲示場所ともに、「よかった」という意見はスタッフに比べ患者・家族が約20%低い結果であった。その他の意見として、「ずっと貼っておいてほしい」「朝礼などで復唱を呼びかけていきたい」など、川柳の内容をリマインドしたいという意見が複数あった。

【取り組みのまとめと今後】

転倒予防川柳の募集と掲示後、転倒は減少しており、患者・家族・医療スタッフに対する意識向上に役立っていた。今後は掲示する場所や方法を改善し、神経内科以外の病棟でも継続して掲示していきたい。

【取り組みの感想】

転倒予防の取り組みとして、患者・家族向けにパンフレットを作成したり、医療スタッフ向けに勉強会をしたりと様々な介入を行ってきたが、今回の方法は、時間を取らず、注意してほしいポイントで患者・家族・医療スタッフに転倒予防のエッセンスを伝えられるという点がよかったと考える。また、形式ばらずに「川柳」という気軽な形にしたことで、患者・家族にも親しみをもってみていただけたと思う。何よりチームが楽しんでQC活動に取り組むことができ、今後のチーム医療の実践に大いに役立ったと思われる。

2. 転倒予防川柳アンケートの解析

・・・医療スタッフ・患者・家族に対し、転倒予防の意識付けができたか？

回収率は75.4%（患者・家族68.8%、スタッフ80.4%）。川柳の掲示については患者・家族は75%、スタッフが97%と多くが認知して

患者・家族

- ・動作を気をつけるようになった。
- ・転倒しないように慎重になった。
- ・自分の気持ちがしまる思い。(転倒したらまた1からなるから、注意することは大事だと思った)

スタッフ

- ・ナースコール指導を頻回におこなうようになった。
- ・センサーの確認など忘れていたときに思い出せた。
- ・トイレ介助で、側を本当に離れてよいのか迷った時に役立った。

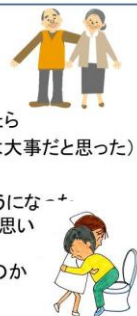


図5 川柳が転倒予防に役だったという意見